がおいしい」とか、「人がフレンドリー」だとかに頼っちゃってる感じがする。これって、福岡だけの特徴じゃないですよね。

清須美／実は、福岡はアクティビティ（活気・活動）が高い。祭りとかも含めて。自然発生的な力と、美しいっていうのを力にして、中村さんが言ったように〝楽しい力〟っていうのをどうつくっていくかになるんじゃないかな。

中村／なるほど。活力ですね。

清須美／福岡の場合、住んでる方もいるけど、特に中心部は流動している人たちも多い。求めるものは、人の属性によっても違うけど、どこから来て、どこに帰るかによっても違う。だから、バランスがすごく重要だと思う。そのバランスのために、中村さんが言った中心とか、テーマが必要になってくるよね。

「都市に求められるものは様々。だからこそバランスが大事」（清須美）

中村／バランスをうまくとる方向に持っていける〝何か〟があるといいと思っているのですが、それが、「こうしちゃいけない」とか、「こうするべき」といったルールじゃないような気がします。自然とみんながそういう方向に行くしくみがうまいことつくれませんかね。難しいだろうけど。情報時代の公共って、みんなが自由な意見を交換して、肯定したり、否定したりしながらプログラムができてくる。そこがおもしろいんじゃないかと思うんです。

清須美／過渡期だとは思うけど、僕は、福岡の今までの景観条例をベースにして、中心になるものや区分は住民が決めればいいと思っていますよ。

メディアと屋外広告と都市空間

中村／広告っていうと、「無理やり買わされる、使わされる」と、どうしてもそういう印象を受けてしまう。いま、消費者はすごく賢いので、一方的に「これはいいですよ」というコマーシャルを流したところであまり信用してくれません。特に、まちなかの広告メディアって、ひたすら主張してもまったく伝わらないです。もちろん面白くもないし、きっと美しくない。僕がやってる広告は、面白い、楽しいと思ってもらって、そこに人がいてくれさえすれば情報提供に結び付く、そういうものなんです。だから、福岡の屋外広告をどうしたらいいかと聞かれたら、〝まち全体を楽しくしたい〟と答えたい。もうちょっと言うと、まち全体がテーマパークになっちゃえばいいんじゃないかと思ったんです。楽しいアトラクションであるのに実は広告である、と。〝楽しいなと思わせる〟という視点があれば、おしつけがましくなくなると思うんです。

清須美／僕が大学を卒業した30年くらい前は「情報化時代」と呼ばれていたけど、30年経って、まさに今、「情報の時代」が来ている。だから、屋外広告を考える時もメディアの持つ特性を理解しないといけませんよね。中村さんは、デジタルサイネージで注目されてますが、現状はどうなんですか？

中村／実はデジタルサイネージってうまくいってないんです。みなさん「最近街なかにテレビがバンバン増えたな～」とは思ってる。壁面が画面になってるやつです。それにテレビと同じコマーシャルや、オリジナルの番組や広告を流してる。3年前くらいには「これから先、広告は全部デジタルになって、サイネージは市場として明るい」と言われてたんですけど、でも、まだまったく明るくないんですよ。たぶん、画面があれば配信できるからラクチンじゃないかとか、テレビは各家庭に行き渡ってしまって売り先がなくなったメーカーが「次はデジタルサイネージだ！」って言ってパネルを売ってしまった。つまり、メディアやハード先行

「楽しいと思わせる屋外広告がきっと福岡を変えますよ」（中村）

でなかなか生かしきれてないんです。僕は、「せっかくだから、そこでしかできないことがしたい」とずっと思っていて、一つの回答として、画面に自分が写ってしまう、そこにいる人にしかわからないシステムをつくりました。福岡はせっかくいいサイズのまちで、しかも画面もどんどん増えているので、そこに行きたくなるような仕掛けがサイネージ広告でつくれると大きく変わると思います。

清須美／僕は、〝デジタルサイネージ〟という言い方が気に入らない。それは、中村さんとまったく同感で、ハード先行だからです。他の多様なメディアと連動して、中村さんの言う、〝中心となるテーマ〟に対してベクトルが向いているようなプログラムになれば、もっと魅力あるものになる気はするんです。今までのものと新しいものをどれだけプラスしていくかですよね。

中村／それが大事でしょうね。情報の発信のしかたも、街角のビジョンばかりでなく、ケータイとかスマートフォンのようなパーソナルなものがいい時もあるし、人だってメディアだと思うんです。福岡は美男美女が多いんだから、福岡市がたくさん人を雇ってまち中を美男美女だらけにして、街角で情報をくれるメディアにできたら人が集まって来そうですよね。

参加者のコメント

participant's comment

光易　清輝 *KIYOTERU MITSUYASU*

ランドスケープに興味があって、今回のシンポジウムに参加させていただきました。20年間福岡を離れていて、3カ月前に東京から戻ってきたばかり。でも、正直、「以前の方が景観がよかったなぁ」と残念に思っていたところです。自然がなくなって、大きなマンションばかりが目立って、まるでリトル東京。福岡は、海と山が都市空間に入り込んでいるすばらしいまちなんです。ぜひ、それを生かせるまちづくりをすすめてほしいですね。

津村　幸紀 *YUKI TSUMURA*

所属している We Love 天神協議会でも、景観や屋外広告について考える機会があるので、何かヒントになればと思って参加しました。特に、“まちをテーマパークに仕立てる”“まちに来た人が参加するしかけをつくる”という、中村さんのお話に興味を持ちました。今後もこのようなシンポジウムがあれば、ぜひ参加したいと思います。景観を考えることで、福岡が楽しく、ストレスのないまちになればいいですね。個人的には、アクロス福岡の屋上からの天神の眺めが大好きです。

正木　哲 *TETSU MASAKI*

大学院で建築を学んでいる学生です。今回は、過去のシンポジウムと視点が違う感じがして楽しみにして来ました。“ハード”だけではなく“ソフト”が景観を変えるという話が大変面白かったです。個人的には、景観に関心を持ってる人はまだまだ少ないと思います。福岡は豊かな土地なので、まあまあのところで満足してしまって問題意識が足りないのかもしれませんね。福岡のいいところは景観の多様性。これから福岡の景観づくりにも積極的に参加していきたいです。